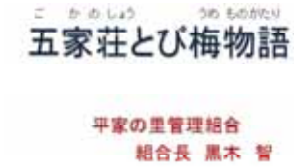
五家荘飛び梅物語

平家の里管理組合長　黒木　智さん講話



みなさん、こんにちは。平家の里管理組合長の黒木です。というより山女荘の黒木といったほうが、分かりやすいかもしれませんね。今日はみなさんに、五家荘に植えてある梅についてお話をしたいと思います。

みなさんは、私たちが住んでいる五家荘に、たくさん梅の木が植えてあることに気づいていましたか？毎年、3月には薄いピンク色の花をいっぱい付けて6月には大きな梅がたくさん実ります。

五家荘を訪れる観光客にきれいな梅の花を見に来てもらいたい、おいしい梅のお料理を楽しんでもらいたいと思ったからです。それに五家荘といえば第一に「樅木神楽」ですが、じつは他にも「五家荘と梅」には、切っても切れないくらい深い関係があるのです。
これから、そのことについて、お話をしましょう。

さて、この写真の人の名前を菅原道真（すがわらのみちざね）といいます。周りの人たちから天才と言われるくらいお勉強がよくできました。亡くなった後に「学問の神様」として扱われるなど、全国的にとても有名な人です。皆さんも一度くらいは「頭が良くなりますように」とか「大切な試験に合格しますように」と、「神様」にお願いしたことがあるのではないでしょうか。

その学問の神様の菅原道真を祀ってあるのが福岡県にある太宰府天満宮です。菅原道真は、むかし京都で日本を動かす政治の大切な仕事をしていました。道真は、仕事場の庭に植えてある梅の木が大好きでした。ところが、ある日その仕事をやめて遠く九州の福岡県太宰府で仕事をするように突然、命令が出されたのです。道真は、悲しんで仕事場を離れる時、とても可愛がっていた梅に向かって「東風（こち）吹かば、匂ひ（におい）おこせよ　梅の花。主（あるじ）なきとて　春な　わすれそ」と語りかけました。「大好きな梅よ、冬を過ぎて温かい東の風が吹きだしたら、素敵な梅の花の香りでみんなを喜ばせなさい。その頃、私はここにいないけれど、梅が一番美しい春、そして梅が一番好きだった私をいつまでも忘れないでくれ。」と伝えたのでした。

可愛がってもらっていた梅は、道真をしたうあまりに後を追って京の空へと舞い上がり、一夜にして太宰府に降り立ったと言われています。そのことから人々はその梅を「飛び梅」と呼びました。その飛び梅は、写真のように太宰府本殿の右側に今でも残っています。ところで、「飛び梅」のある太宰府天満宮と私たちが住む五家荘とは一体どんな結びつきがあるのでしょうか？

今から二十数年前に、季節ごとに色々変化する山々がいっぱい残っている五家荘が大好きで、毎年わざわざ福岡県から写真を写しにくる人がいました。名前を弥永泰正（いよなが　やすまさ）さんと言います。弥永さんは、いつも山女荘に泊まり込んで五家荘の素敵な写真を撮りに出かけました。夜の食事の時に、私が仁田尾地区と樅木地区には菅原道真の子孫である左座太郎と菅　次郎が住みつき、それぞれ神社を建てて菅原道真を祀ってあることを伝えました。弥永さんは大変驚き「それなら天満宮とご縁があることになる。何かそれを形に表してはどうか」という提案をされたので、当時の草西村長と早速相談したところ、太宰府天満宮の「飛び梅」の分け根をお願いできないだろうかと言うことになりました。

しばらくして、弥永さんから天満宮に連絡を入れてもらい、太郎の子孫である左座力男さんや草西村長そして私を含めて２０人で、太宰府天満宮に飛び梅の分け根をお願いに出かけたのです。

ところが太宰府天満宮では、原則として神様の木であるご神木の飛び梅の分け根はできない決まりがあることから、なかなか良い返事が返ってはきませんでした。しかし、古い資料の中に確かにつながりがあることが書かれていたことから、しばらくすると「歴史的な縁がある間柄なので、気持ちよく分け根に応じます。」という嬉しい返事をもらうことができたのです。

昭和５６年１０月２３日に太宰府天満宮で奉告祭（ほうこくさい）が行われ、十数年ほど育った梅の木が仁田尾神社と樅木神社に分け根されたのでした。

神様の木である飛び梅は、大切に大切にトラックに積み込まれました。その様子に感動して、みんなで記念写真を撮ったのがこの写真です。

これは、そのとき五家荘に向けて出発するご神木の飛び梅を太宰府天満宮の皆さんが見送っている様子です。

大宰府の「飛梅」五家荘へ

根分けの願い実る

太宰府天満宮の大切なご神木の飛び梅が分け根されることは絶対にないと他の地域の人は思っていました。そこへ飛び梅が全国にただ一カ所だけ五家荘に、最初で最後の分け根がされるということで大ニュースとなり、各新聞に大々的に掲載されました。

五家荘の人たちは、太宰府天満宮の心温まる対応にみんなが感動し、それからは毎年のように大型バスに乗り合わせて太宰府天満宮へお礼の参拝に出かけたほどでした。

しばらくすると、五家荘の人たちの中から、飛び梅をいただいたお礼に何か記念になるお返しができないかという声が上がりました。みんなで相談した結果、五家荘自慢の石楠花（しゃくなげ）の苗をプレゼントしようということになり、太宰府天満宮本殿の横の山手に植えることになりました。各家庭から石楠花の苗木を持ち寄って５０本ほど植え付けました。

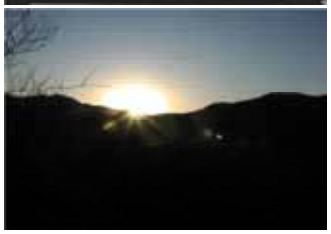
その入り口には、このことをお祝いして「五家荘園」という大きな祈念碑を建てました。

それからも五家荘と太宰府天満宮との交流は、ずっと続いています。その1つですが、これは、太宰府天満宮の御縁祭（みゆかりさい）で樅木神楽を奉納したときの様子です。

この他にも、天満宮で行われる大きな祭りには五家荘から出かけていって、たくさんの参拝者の前で神楽を奉納しました。

数年前には、太宰府天満宮から大変お世話になった小鳥井神官（ことりいしんかん）が四人の巫女（みこ）さんを伴って、わざわざ五家荘を訪問されました。

このように太宰府天満宮と五家荘は、深いつながりがありましたが直接の交流はありませんでした。そのつながりをどのように結びつけたのかということが太宰府天満宮にある五家荘園の石碑に詳しく刻み込まれています。このつながりを大切にして、これからもずっと深め合っていって欲しいと思っています。



最後に、ここにいる皆さんは学問の神様である菅原道真の血を受け継いでいる子孫であることをぜひ自覚して欲しいと思います。しっかり勉強すれば、菅原道真のように素晴らしい能力を発揮できるようなパワーが引き継がれています。みなさんの努力によって、今よりもっともっと素晴らしい五家荘になるように一人一人が頑張って欲しいと願っています。